



(社)日本技術士会 中部支部内 愛知県技術士会事務局

〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目4番14号 花車ビル北館6階

TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://www.mmjp.or.jp/chubu-IPEJ/aichi.html> MAIL g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

「巻頭言」

師走に思う

愛知県技術士会代表幹事 柴田素伸

二〇〇五年も師走を迎えた。今年は明るいニュースよりも暗いニュースが多く心に残る。その中には、技術者の倫理の重要性を証明するようなものもあり、技術士の関与について世間は関心をもつて眺めているに違いない。社会の明暗を分けるのも人の仕業による。明るい社会は作らないと得られない。そのために、小さな一歩でもできることを社会に向かって実践していきたいと自分に言い聞かしている。



柴田代表幹事

会報の玉で掲載実験

いよいよ本号、十二月号より、愛知県技術士会会報のホームページ（以降HP）化実験を開始しました。本号のレイアウトや内容構成はこれまでのまま据え置きますが、今後は皆さんのご意見をお聞きしながら内容の改新も進めていきたいと考えています。なお、会報の中には、お知らせなど、一部、愛知県技術士会HPの他のページと重複するコンテンツもありますが、これは、現段階では会報郵送を希望されている会員諸氏がおられ、その方々に印刷物として会報を送付するための暫定的な措置であることをおことわりしておきます。

「湖海の士」

脱技術士のすすめ

—異分野との交流と次世代への教育を—

木村 正彦（建設）

魅力ある技術士になりたい。人間的に惹かれる技術士の方が技術士会にたくさんいれば、きっと技術士会の会員はもっと増えるであろうと思います。年会費2万円が安いと思える技術士会にすることが会員増強には一番の得策であると考えます。それには、私を含めて会員の技術士の方々が、技術的には勿論、人間的にも幅が持てるように研鑽を積める場となる技術士会であって欲しい。

通常の技術講演会・業績発表も大事ですが、世の中は技術士が日頃眺めている視野よりもっと広くて魅力的な世界が広がっていると思います。そのような別世界も触れることができる技術士会にして欲しいし、私が率先してその方向へもって行けるよう努力していきたいと思っています。とにかく、『技術士会』の中部支部の事務所・愛知県技術士会等のHPなどを訪問すれば、何か、があり、何か掴んで帰れるような「場」でありたいと熱望する次第です。

私も約十五年間、技術士会に入会して、阪神・淡路大震災（二）を契機に、月刊技術士・業績大会、全国大会など、色々と投稿・発言して参りましたが、残念ながらほとんど反響がありません。全くのマスターベーションで終わっているのが大部分です。それでも、私は続けますが…。毎年、業績大会（優秀論文は発表あり・技術者倫理論文（全国大会時に発表、論文は提出しておりますが、発表は一度もしてありません）・部門別論文（毎年・月刊技術士の

一月号臨時増刊発行）の三回の論文募集には必ず原稿を提出し続けるつもりです。それも、各回全く別のテーマ・観点で論じていきたいと考えております。そのためには、世の中の動向・人気度・勝組みの存在など、自ずから関心を持たざるを得なくなり、皆さんも是非投稿して下さいることを強く希望します。

現在、私の技術士会との関わり合いは、日本技術士会（中部支部所属）、愛知県技術士会（幹事）、愛知県企業内技術士会、中部建設部会、ETの会、わいがやフォーラム（世話人）に所属しております。技術士だけで、六つです。

その中で、ETの会では、名古屋技術者倫理研究会と、わいがやフォーラムでは名古屋産業教育研究会と連携を取りつつあります。すなわち、「技術士会」という枠を超えて、他の分野の方々と意見交流を活発にして、技術だけでなく、何事にも習熟できるような『技術士会』であって欲しいと強く願う次第である。

私は、昨年（二〇〇四年）十一月に奈良に開催された第十回西日本技術士会業績大会に投稿（二）して、そして発表もして関西の技術士会の会員方々とも交流を深めて参りました。また日頃お付き合いしていただいている中部支部の会員の方とは違った考え方・雰囲気を持つていらっしゃる技術士の方がいるという感触を得ました。手間・時間・お金をかけていった甲斐があったと今も思っています。やはり、当地に出かけ直接お会いして、色々な方のお話を聴く機会をもっと持つべきであると強く思いました。現在、私は地元企業に勤務する身ではありますが、平成六年〜平成九年の三年間、東京・青森に出向させていただきました。その出向中に前記の阪神・淡路大震災が発生して、月刊技術士誌への最初の投稿の機



表 私が今年（2005年・平成17年）発表した拙論リスト

技術士増刊号2005年1月 ■論文特集		
○建設産業の再生(The Regeneration of the Construction Industry)	pp.40~43	
平成17年度（第23回）技術士CPD・技術士研究・業績発表年次大会論文集		
○水問題について — 「水質浄化」と「水量調整」—	pp.142~145	
(社)日本技術士会「第2回技術者倫理研究事例発表大会」論文集（発表なし）		
○データ改ざんと技術者倫理について — 情報隠しとデータ改ざんく虚偽報告—内部告発—	pp.23~26	
E Tの会配布資料（①～④グループ所属、会員のみ配布）		
11月26日	A建築士構造計算書データ改ざん問題について（とりあえず速報）	A4・2枚
10月16日	平成17年10月ETミーティングに寄せて	A4・2枚
	生圏倫理学「エコエティカ」vs生命圏倫理学「バイオエシックス」	A4・2枚
9月18日	素書「倫理学のフロンティア」XVI 工学倫理の諸相 エンジニアリングの知的・倫理的問題 第三章 原子力の専門家の特徴と倫理 西原英晃（京都大学名誉教授）を拝読して（私見）	A4・2枚
8月27日	科学哲学と技術者倫理	A4・2枚
	「遊び」と「無駄」の違いが分かる技術者になりたい	A4・2枚
6月19日	企業倫理に負けない「技術者倫理」の確立を 「第10章 正直性・真実性・信頼性」・「第12章 警告鳴らし（または内部告発）」をお読みして	A4・2枚
	『技術者倫理』関連文献リスト	A4・2枚
5月11日	JR西日本に「技術者倫理」・「技術組織倫理（私語）」を掲げさせるためには（第二報）	A4・2枚
5月8日	尼崎脱線事故から学ぶ『技術者倫理』について JABEE（日本技術者教育認定機構・Japan Accreditation Board for Engineering Education）の技術者倫理教育について 『技術者倫理』についてのコメント	A4・2枚 A4・2枚 A4・2枚
2月5日	技術者倫理研究会の進め方についてのご提案	A4・2枚
わいがやフォーラム配布資料（フォーラム会員・参加者のみ配布）		
11月24日	愛知県技術士会会員を増やすにはどうすればいいか	A4・2枚
9月27日	『雷害ビジネス』について（その2） 『安全ビジネス』について（その1）	A4・2枚 A4・1枚
8月29日	『雷害ビジネス』について	A4・2枚
7月14日	わいがやフォーラム・平成17年7月例会にあたって	A4・1枚
6月25日	『スト』万載をえら — 東海地区の万載終了後の地盤沈下を防ぐには—	A4・2枚
3月21日	「わいがやフォーラム」に思う	A4・1枚
愛知県技術士会平成17年度見学会資料（参加者のみ配布）		
11月16日	I トヨタ自動車株田原工廠の概要、II 株ジェイウィンド田原線の概要 （参考）「トヨタ語」語彙集 風力発電のLCA（ライフサイクルアセスメント）的考察	A3・2枚 A3・2枚 A4・2枚

会を得、北海道の技術士全国大会のパネラー（地震の特別セミナー）など貴重な経験をさせていただきました。また、当時の本部（東京）の青年技術士懇談会（現青年技術士会）にも参加させていただき、その時にお知り合いになった方とは、今も旧交を温めております。

以上、雑駁に下らないことを書きましたが、結論は、『出会い』が大事なこと。この原稿も、技術士試験に合格して、日本技術士会に入会し、愛知県技術士会の一員に加えてもらって、それから書くことができるわけです。今後とも技術士会を大いに利用させてもらいたいと思います。

現在、私が最も関心を持っている事項は、『教育』です。大学に入って「建築」を志して三十年、建築士になって約四半世紀、技術士になって約十五年です。今まで、自分の中で培ってきた様々なことをわかりやすくまとめ、これから私の後に続く世代に引き継いでいこうと考えています。

幸い、内田貞武副代表幹事のご紹介で、昨年「高校生ものづくりコンテスト」の橋梁製作部門の三重県予選・東海地区大会の審査のお手伝いをさせてもらっています。そこに出場する高校生たちの眼の輝きは違ふなあと感心する次第です。失礼ですが、私も含め、技術士の方々のくすんだ目は全く違ひます。純粋で清らかでそして澄んでいます。人間

は歳を取るとこうも違ってくるんだなあと思います。ここに出てくる生徒さんたちは、いじめも無気力感もなく希望に満ち溢れていると感心しつつ、この子たちをまっすぐに育てていかなければならないという使命感にも逆にかれます（そう言えば、我が家にも二人ほどいるなあ〜と）。

先日、三重県技術士会のセミナーで、当日パネリストカッションのコーディネーターをしていた三重県技術士会の顧問をなさっている鈴鹿国際大学の妹尾允史副学長様と会場ですべての後の電話でお話しする機会があり、教育のお話をお聴きした時に、先生は「グローバルな視野」と「ローカルな立脚」を強調されていました。つまり、学際的な分野も包含できる技術力と、欧米などの他国の地で育った技術を地元（三重）に寝付かせる技術力が共に必要であると力説されていました。特に、地元のRDF事故の教訓であるとおっしゃっていました。今回、私の申し上げたいキーワードは、『出会い』と『教育』です。今後の私の技術士会の活動は、その二つを車の両輪として進めていきたいと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

（次回、新年の第一回目「湖海の一土」は、日頃からお世話になってます山口昇三先生（建設部門）にお願いしております。）

（参考文献）
① 木村正彦：建設分野の新技術——阪神・淡路大震災を踏まえて——
技術士 平成17年7月臨時増刊号 研究・業績特集 各分野における技術士活動の最近の成果 一〇九

「お知らせ」

頁々一頁
（2）木村正彦：「ものづくり」はまづ『仲間づくり』から 第十回西日本技術士研究・業績発表年次大会論文集 1-211から1-214
（社）日本技術士会近畿支部 平成十六年十一月

●愛知県技術士会二〇〇五年度第五回例会
「ふれあい技術士プラザ」

「私の活動・ビジネス構想・相互理解と連携をもとめて」をテーマに左記の要領で開催いたします。

・日時

平成十八年二月十八日（土）

午後一時受付開始

午後一時三十分開催

午後四時より交流会

場所 花車ビル北館5階会議室

・会費 二千円（非会員三千円）

※参加希望者は、指定書式（愛

知県技術士会HPからダウンロードできます）に自己アピ

ル文を作成し、愛知県技術士

会事務局にメール送信して下

さい。欠席者も同様に文書を送

っていたければ製本して資料と

させていただきます。

※詳しくは会報巻頭の住所にお問

い合わせ頂るか、愛知県技術

士会HPを閲覧して下さい。

愛知県技術士の非会員の方々にも

ふるってご参加いただき、会員との

連携を図って頂ければ幸いです。



『幹事会報告』

二〇〇五年十一月十九日（土）の幹事会の報告

一．十月十五日の

「業績発表会」の反省
参加者がやや少なかったことが残念だが、内容は概ね好評で、交流会がよかった

二．十一月十六日の

「見学会」の反省

● 四一名が参加
● 企画はよかったが、やむをえないトラブル（渋滞）があり、残念だった

● 見学会の日程は九、十月あたりの方がよい



視察時のワンショット

三．

来年二月十八日の「ふれあい技術士プラザ」の準備
● 花車ビル北館で開催
● 「相互理解と連携」がテーマ

自己アピール文書を事前提出

してもらい、当日は、それをもとにして参加者全員が1人2〜3分のスピーチ

四．愛知県技術士会活性化のためのアンケートの進捗確認

● 現時点での提出率は約80%
● 2005年12月中旬に結果をまとめ、来年一月の幹事会に報告

五．会報の発行方法の変更

● 予定通り、第六十八号（十二月号）から新たな発行方法を試行する

● 会報を郵送している方々には今までどおりに対応

六．その他

● ワーキンググループからの活況の報告
● 本部・中部支部活動報告

『編集後記』

巻頭でもお伝えしましたように本号から会報をHP上に掲載しました。今年度中は試行段階です。来年四月以降に会員の皆さんのご意見などを参考にして、幹事会でHP化の是非を決定します。

本号は本来ならば、今月初旬に掲載されるべきところ、事務局の技術不足、不慣れ等によって大幅に遅れての掲載となりました。紙面を借りてお詫び申し上げます。技術士としても、マネジメント能力をもっと向上させなければと、反省しきりです。

今回の作業は、実はいつもの会報作成と大きく異なるものではありませんでした。しかし、HPに掲載する号であるという視点で組んでいく中で考えたことを、少し記してみます。

HP掲載そのものについては、愛知県技術士会HPの管理をしてられる幹事会員の存在が大きく、当面は技術的には問題ありません。しかし、逆に言えば特定の担当が管理を一手に引き受けているわけであり、幹事交代等の場合の想定を考えて体制づくりをしていく必要があります。役員交代とは別の問題として、HPのもつ即時性のメリットを考えると、情報提供のためのコンテンツ調整を日常的に行なう必要があり、その負担も決して小さくはありません。

紙面編集については、会報をHPに載せることによって、コンテンツの重複が明確になりました。巻頭でも記したように、当面は会報を印刷物として郵送する必要があるため、「お知らせ」を掲載する意味があります。但し、郵送を中止した場合、会報としての独自のコンテンツは「湖海の士」のみになります。であれば、ホームページのひとつのコンテンツとして「湖海の士」を掲載すればよいわけです。仮にその他のコンテンツを増やしたとしても、ホームページの中に「会報」としての独立性を持たせる必然性を見出せるか、という問題があるように思われます。

つまり、愛知県技術士会がホームページを運営している現在、その上での会報の存在理由は何かということとです。あるいは、独立して存在する価値を持つにはどのようなコンテンツの開発と運営が望ましいのかということとです。この問題は、会員の皆さんへの価値ある情報提起は何かというテーマにつながっていくようです。

これを機会に、皆さんと会報の意

味を問い直し、その価値を確認したいと考えています。
(事務局)

埋めネタコラム

中国西域事情：右の写真はトルファンに向かう途中の風力発電用風車の列。左はトルファンの市街地。スプリンクラーが配置された公園では、惜しげもなく地下水がまかれ、路面もびしょぬれです。「環境」に関するあり方を考えさせられる風景でした。

